

タウンミーティング2021第4回【起業】意見交換要旨

● 日 時

令和4年2月16日（水） 10:30～12:00

● 会 場

起業プラザひょうご姫路

● 参加者

清元 秀泰 姫路市長

若手起業家 5名

起業に興味がある学生 2名

● 意見交換の主な内容

【問】①起業してみて、姫路市は起業しやすいまちだと思ったか。

②起業前後で姫路のまちの印象は変わったか。

【意見】①起業のしやすさ

商工会議所などの頼る先があったので、起業しやすかった。起業といっても、パートで働く代わりくらいになればいいなという程度の始め方だったので、より始めやすかった。また、ちょうど私が起業した頃は、姫路にコワーキングスペースが増えた時期だったおかげでいろんな事にチャレンジしやすかった。さらに姫路は地元の人に優しいお店が多く、こんなイベントをやってみたいというと、「じゃあやりましょう」と言ってくれるお店があり、おかげですぐに開催することができた。

また、姫路商工会議所の創業塾では、自分の中で稼ぎたいイメージとやりたい規模感を「そういう働き方もあるね」と認めてもらえた。また、先生にも「その計画だったら、子供が大きくなって自分が本格的にしたくなったらやればいい」と言ってもらえたことで自信を持てた。

②姫路のまちの印象の変化

起業してから、姫路市は微妙に人口が減り続けていることと、人口が減っている割に地元でいたいという人がいる矛盾を感じた。何かそこで自分がもっとできることがないかという考えをすごく持つようになった。イベントについては、毎回試行錯誤してアイデアを出している。「私は地味だ」とか「しゃべるのが下手だ」と言う人がいるが、世の中みんなしゃべり上手なわけではない。すごく下手でも、どんな人でも自信を持つようわかりやすく教えてあげる場があればいいと思う。

【意見】①起業のしやすさ

私は、とてもスムーズに起業ができた。個人的におかれている状況が大きいと思っている。友人も自営業の人が多く、商工会議所の創業塾も起業に興味を持つ前から知っていた。また、

コワーキングスペースもすごく好きで、もともと行っていたこともあり、情報が集まりやすかった。中には商工会議所の存在を知らない人もおり、情報を知っている人と知らない人では結構大きな差があると感じている。

(②姫路のまちの印象の変化)

起業してみて、最初は姫路と姫路外の顧客は半々になればいいと思っていたが、実際やってみたら、顧客数は姫路が多くて、売上は姫路外の人が多いという現状だ。東京や大阪だと、フルリモートの会社も非常に増えており、フリーランスや個人で働く人も多いが、姫路の人に事業内容を説明すると、興味は持ってくれるが、ピンときていないように感じる。コロナ禍で私の業種に対する認知度やニーズは増えており、姫路でも需要はあるように感じるので、これから3年・5年・10年かけて、いろんな人に利用してもらいたい。

【意見】(①起業のしやすさ)

姫路の良さは、横のつながりが広いことだ。起業プラザひょうご姫路を利用し始めたのも紹介からだ。東京では会社で働いていたが、姫路では個人でやることになるから一人で頑張らなくては、と自分を奮い立たせていた。でも、周りがサポートしてくれるので、今までそれほど苦しんだこともなく、ご縁がつながりトントン拍子に予定よりも早く始めることができた。

(②姫路のまちの印象の変化)

東京から帰ってきて、姫路と都会では健康に対する意識が異なると感じた。東京では、健康維持のために運動を選択しているイメージだったが、姫路では、怪我をしたり、不調を感じてから運動し、良くなったらやめるイメージだ。悪い状態が当たり前ではなく、良い状態が当たり前にしてほしいと感じている。運動が苦手な人も、自分自身で健康を維持できるような考え方や環境作りをしていきたいと考えている。

【意見】(①起業のしやすさ)

ビジネスがうまくいくかは別にして、起業家支援の施設もあり、いろいろ相談ができたり、セミナーが受けられるという点では非常に起業しやすい土壌があると思う。起業プラザひょうご姫路は非常にリーズナブルに使える、ここに来れば誰かと喋ることができるので、まったく一人でするわけではないという点で、起業は非常にしやすいと感じた。起業してからずっとコロナが続いているが、いろいろトライしてチャンスを得られるようにしたい。

(②姫路のまちの印象の変化)

私は生まれも育ちも仕事もすべて姫路なので、印象は、それほど変わっていない。

【意見】(①起業のしやすさ)

私は神戸で起業した。その時もそうだったが、商工会議所の情報が全くなかった。税務署に開業届を出したタイミングで、そんな情報があれば今の状況ももっと変わっていたと思う。私の仕事はパソコンがあればどこでもできる仕事なので、仕事がなくなったら大阪や東京に行けばいいと思っていたが、実家が姫路なのでここで登記した。いざとなれば登記の住所も変え

て、どこかにいけばいいと思っていたが、法務局での手続きは意外と面倒臭いし費用もかかるので、もっと起業支援に力を入れていただきたいと思う。

(②姫路のまちの印象の変化)

私の若い頃と比べれば、姫路のまちはかなり綺麗になったが、他都市の人からするとまだ昔の姫路のイメージが残っている。もっと市長が「こんなに良くなったよ！」と発信していただけたらいいのかなと思う。

デジタルの業界は、デジタル系の補助金がたくさん出ている。どこでも仕事ができるからみんな地元に戻るといふことだと思うが、東京23区で初めて転出が増加した。姫路市にとっても結婚して子供を産んでもらうチャンスでもある。姫路市独自の補助金みたいなものがあれば全国から帰ってきやすのではないかと思う。

- 【市長】・ 姫路市も来年度から出会いの場やマッチングなどに対する支援策を予算化しようとしており、少子化対策になることに力を入れていきたい。
- ・ 姫路の良さである横のつながりを嫌う人もいるが、起業時には応援やバックアップ、アドバイスも貰えるという点では良かったと思う。健康意識の話もあったが、ただ単に長生きするのではなく健康寿命が延びるような、健康支援が重要だ。
 - ・ まちの様子が随分変化しているにもかかわらず、昔のイメージのままの部分もあるので、変化したまちの様子を発信する必要がある。U I Jターンの支援策の他、姫路市のイメージアップにつながるCMのようなものを制作する等、どんどん発信力を高めていけるような取り組みを考えてみたい。

【問】 学生から起業家への質問

【質問】 現在の事業をやろうと思ったきっかけと、起業を意識した時期は。

【回答】 きっかけがいっぱいあり、決定打はなかった。結婚・出産し、事務経験のみで資格も簿記しかない中、何ができるか考えた時に、自分が楽しそうだったものが現在の事業だった。場所不要、在庫不要、自分の身一つでできる、と経済的にも始めやすかったことも大きい。起業しようと思ったタイミングは、子供が1歳になる前に、パートを始める準備をするなかで起業の考えにたどり着き、夫に相談したところ賛成してもらえたことが最終的なきっかけだ。

【質問】 他の業種で起業を考えたことは。

【回答】 私は、現在の事業がしたくて独立したというよりは、昔から器用貧乏で、いろいろできるが、特にやりたいこともないような状態で、起業する前はフリーターをしていた。何ができるか考えたら、器用貧乏だから割と何でもそつなくできる、周りに自営業の友達が多い、もしかしたら仕事になるかもしれないという感じで始めた。今思えばもっと選択肢があったかもしれないが、それ以外に考える余裕もなく、当時の私の中ではこれしかなかった。

【回答】 私は元々起業するつもりが全くなく、東京の職場で働いていた。地元に戻らなかつたら、ずっとその会社に勤めていたと思う。私は、人の上に行くよりも誰かのサポートをしたいと思ってい

たので、起業するつもりはなかった。しかし地元に戻ることになり、自分の好きなことでやっていきたいということで、起業することとなった。他のことで起業はしなかったと思う。

【質問】 事業を続けていくには、産業や事業をどのように生み出していくかというアイデアが必要だと思うが、アイデアはどのようにして出てきているのか。

【回答】 私の場合は前職の営業経験が元になっている。過去に断られた経験を通して、特定の商品の看板がなく中立的な立場からのアドバイスであれば、話を聞いていただける人もいらっしゃるのではと感じたのが、ビジネスを始める要因になった。

【質問】 起業したときと現在とで、ビジョンは変わっているか。それともそのまま初心を貫いてビジョンを達成しようと事業をされているのか。

【回答】 意識としては信念を貫きたい。自分の経済的なところを成り立たせることができる中で、何をやりたいかを見つけていくしかないのかなと思う。

【質問】 どのような業種で起業しようかと考えて、本を読んだり YouTube を見て勉強しているが、自分の考えが思い浮かばない。いろんな人の意見の受け売りになってしまい、どうしても自分の考えがなかなか出てこないが、どのように自分の考えを作り出していくのか。勉強しながら段々と自分の考えができていくのか、それとも元々自分の中の信念が起業のアイデアに出てきているのか。

【回答】 ビジネスは面白くて、自分の得意なことをやればいいだけである。まだあまりアルバイト等をしたことが無いなら、とりあえずやってみることだ。その仕事が好きか嫌いかで段々嫌いなことをやめていけば好きなことだけ残る。それが私の場合はインターネットで作業することだった。いろんな人脈ができて、異業種のすごい人たちとつながっていくと、とても面白いアイデアのある人と出会える。自分の持っているスキルと、その人のアイデアを掛け合わせたら何か面白いことできるのではないかの繰り返しで、今に至っている。とりあえずいろんなアルバイトをしてみるといいのではないか。

【質問】 姫路市も段々と人口減少して行くという話があったが、人口減少していくと、どうしても産業全体が縮小していく。そうなった場合、どのような経営判断をされる予定か。例えばその産業から撤退する、もしくは人口が増えている県や国に行くなど、どのような経営判断をされるのか聞きたい。

【回答】 産業自体が縮小傾向になるなら、考えた方がいいとは思いますが、自分の人生を考えて、あと50年くらい成り立つ可能性があるなら、そこでのパフォーマンスを最大化する努力をすると思う。私は得意な業務を行い、不得意なものは外部にお願いしようという感じで、一人ひとりが自分のいちばん得意なことを持ち寄って仕事をするスキルシェアができれば人数が減っても、パフォーマンスは落ちないと思う。自分だけではなく、日本全国のお客さんもそういう働き方ができるようになるようにしたいと思っている。

【質問】 消費者が減って売上げが減少した場合に、場所を移転するという判断もあり得るか。

【回答】 それを解消する1つの手段がオンラインやITだと思っている。私の場合は、日本全国どこで

もできるし、お客さんも全国にいる。将来的には全世界の人がお客さんになることもあり得ると思っ

ているので、それに対応していきたい。

【市長】 学生の方は今まだ勉強中で、社会の中の経験が少ないこともあると思うが、勉強することは全然意味の無いことではなくて、そこに素地があって、いろんな経験をしたところから自分が本当に楽しいなと思えることや自分の得意なところを伸ばすのが、続くコツかもしれないと思った。

私も医学部に入り、実習しながら中退していく人達も結構多く見た。続けていくためには、楽しいから、得意だから、社会の中で何かの役に立つからといったことが、人生のモチベーションになる。そのひとつの形として起業があると思う。

先程お話を聞いて感動したのは、ニッチな隙間産業的なところでも、ニーズを上手く掘り起こせば、持続可能な会社の運営もできると思う。

起業するのは易しくないと思うが、若いのでやりたいことをやるのがいいのではないかなと思う。アメリカに住んでいた時に多くの起業家に会ったが、失敗したことでも、「3年やってみたが、ダメだった」というように自慢話として話していた。起業のハードルが日本は少し高いような気がする。やってみて失敗したけど、やり直せるのも日本のいいところらしい感じになるといいと思う。一生懸命取り組んでいたらそのうち何か残っていくと思うので、頑張ってもらいたい。

【起業家から起業を考えている方へのアドバイス】

- 日本は起業のハードルが非常に高いと思う。軽い感じで起業しても、意外と楽しく仕事もできる。起業してみたらどうかなるし、ダメだったらまた普通に働けばいいという感覚で始めればいいのか。
- 好きとか得意を仕事にするという働き方は、自分のスキルだけで自分の身一つでできて在庫も要らない、店舗も要らない、初期投資ほぼゼロで始められることも多いと思う。そういうクラウドソーシングやオンラインのサービスも沢山あるので、副業で始めたり、お試しで始めることができる。いまはハードルが低くなっていると思うので、やりたいことや好きなことがある人は、そういうところから試してみたらいいと思う。
- 好きで得意なことだと続く。金銭的な不安などは、自分だけで考えず、いろんな人に話を聞くといい。
- 起業するなら徹底的に準備をして、自分で思う以上に、第三者からも評価されるくらいのもので作りあげた方がいいと思う。失敗も1つの経験になるようにしていきたい。
- 起業するのは簡単で、今日から社長だと言えばいい。もし失敗してもやり直せばいいので、まず起業してみて成功したらラッキーくらいに思ってやればいいのか。後は、付き合い先や借入先に注意して頑張ればいいのかと思う。

【市長】 起業に関して、様々な視点から、姫路の可能性や未来をどのように豊かなものにしていくか

も含め、提言をたくさんいただき参考になった。市長も一種の起業みたいなもので、いろんな契機を経て市長選挙に出るといって正に起業のような経験をした。なんでやったのか考えてみると、根底には自分自身が東北の震災の復興事業をやり、困っている人を少しでもなんとか元気にしたい、笑顔溢れる街にしたい、ふるさと姫路を元気にしたいというような思いがあり、市長という起業をしたと思う。

地域に新たな活力を生んで成長産業をさらにつなげていくために、引き続き兵庫県とも連携して起業プラザひょうご姫路を活用して個々の力を応援していく。英語のL i f eに寄せて、命を輝かせて、その命が輝くための暮らしを豊かにすること、最後はやはりこのふるさと姫路で暮らして良かったなという感想が、自然と出るまちを作っていきたい。